

みんなの
ための
学校長会に



学校長会HP

茨城県 学校長会広報

第260号

発行者
茨城県学校長会
会長 大芝 静香
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

特色ある学校経営 行財政・調査研究委員会の要望や取組



「子供が考え挑戦する」
チャンスをつくり見届ける学校

行方・北浦小
成田 悦子

本校は、開校九年目、学校運営協議会を設置した、地域と共にある小学校です。二九三名の児童全員が、「ひとのために」輝けるように、未来のために「輝けるよう、家庭・地域と目標を共有し協働で育んでいます。

今年度は、「自ら思考・判断・表現する授業づくり」「互いを認め人間関係を築くための、体験的な学びの場づくり」「生涯にわたる、健康的な生活習慣と体力づくり」に重点を取り組んでいます。大人は、機会をつくり、見届けることに徹します。

目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- (特集1) 特色ある学校経営……………2
- (特集2) 行財政・調査研究委員会
の要望や取組……………6
- 特別寄稿
後藤新平先生の「自治三訣」に想う……………7
- 経営研究「創意工夫を生かした
特色ある教育課程」……………8
- 課題「若手への関わり」……………10
- 市町村教育委員会と学校長会……………11
- 梅のかおり―先輩校長から―……………12
- 図書案内……………14
- ひばり……………15

特集 1

特色ある学校経営

Smile&Happyな学校を目指して ～みんなで進める学校づくり～

水戸・見川小 関口 一治

本校は水戸市のほぼ中心に位置し、児童数五四〇名、今年度で創立一五〇周年を迎え、校庭の真ん中に光圀公(水戸黄門)お手植えのしだれ桜が佇む、たいへん地域に愛されている学校です。

一 経営について

児童が考えた学校づくりのスローガン「Smile&Happy」には、「見川小学校はどんな学校?」と聞かれたら、児童も職員も、保護者や地域の方々も「Smile&Happyな学校」と答えられるようにしたいという願いが込められています。

このスローガンを旗印に、経営の重点を「一人一人が主体的に成長する学校づくり」なりたいたい自分を目指しながら、粘り強く取り組み、自分を成長させていく」としています。

本校では、多様な方々と共に学校づくりが進んでいる『強み』と、生徒指導・特別支援教育の充実のため関係機関と協働体制構築という『課題』を踏まえた取組について紹介します。

二 『強み』を生かした主な取組

(一) 保護者と共に
保護者が学校に行きやすい雰囲気が醸成されており、学

校での保護者の活動も活発です。

全学年児童を対象にした読み聞かせをはじめ、児童と保護者が協働して創り上げる音読劇は感動的です。児童の読書への関心は高まり、互いに感想を伝え合うなど豊かな心を育む姿が見られます。

また、校舎内の清掃、七夕に合わせた児童が作成した短冊を昇降口に飾る等、清潔で潤いのある環境づくりにも貢献していただいています。

(二) 地域の方々と共に

一年生や二年生が校外学習に出かけるとなれば、住みよい見川をつくる会の方々が児童と一緒に学習課題に取り組みます。防犯協会の方々は歩行の安全を守ります。

また、秋に実施する創立一五〇周年記念式典では、第二部として地域の各種団体共催による「見川ふれあいまつり」が予定されています。

(三) ゲストティーチャーと共に
五年生は保健や総合的な学習の時間で、公認心理士の資格をもつヨガ講師と一緒に「いのち(心と体)の守り方」の体験を、六年生はキャリア教

育として、ウェディングプランナー・パティシエ・スタイリストと一緒に結婚式をつくりあげる活動を通して「未来の自分について考える」経験をしました。

他にも、環境問題や宇宙の専門家による授業等、その道のプロの方々との関わり、ホンモノに触れる機会が数多くあります。

(四) ボランティアの方々と共に
毎週来校して生花を飾る方々、登下校の見守りをする方々、運動会で児童の見守りやけがの手当てをする方々等、多様なボランティアの方々が活躍しています。

三 関係機関と協働体制構築

(一) 生徒指導

虐待の疑いによる通告や一時保護が後を絶たず、三日以上不安確認できない等もある中で、市子育て支援課や児童相談所とは連携を超えて協働の域に達しています。また、不登校児童の学びの保証も確実に進めなければならず、公的機関に加え民間施設との協働体制もだいたい進んできました。

最初は校長と生徒指導主事が関係機関とのつなぎ役となりますが、徐々に職員がやりとりできるように整えています。

(二) 特別支援教育

特別支援学級七学級、通級指導教室一教室を設置し支援の充実を努めています。一人一人の状態の多様化・深刻さに対応するため、特別支援学校や病院、デイケア施設等の専門家とケース会議の開催や日常的な情報交換ができるようになってきました。

教頭と特別支援教育コーディネーターのリーダーシップのもと、通常の学級に在籍する教育的ニーズのある児童への支援も、関係機関の助言により具体化が進んでいます。

四 おわりに

新任校長として経営に携わって四カ月、あらゆる方々と交流する中で、みんなで共に協働することは「Smile&Happyな学校」が実現する一つのポイントだろうと実感しています。



ゲストティーチャー(公認心理士の資格をもつヨガ講師)による「いのち(心と体)の守り方」の体験 ※写真はマインドフルネスを体験している様子

創立一五〇年をむかえて — 地域とともにある学校 —

北茨城・精華小 飯塚 浩之

一 はじめに

本校は、常磐線磯原駅から西に六〇〇m程に位置し、童謡「七つの子」などで有名な野口雨情の母校である。全校児童は四〇三名。明るく元気な児童が多い学校で、昨年創立一五〇年を迎えた。ここではその取組について紹介する。

二 創立一五〇年

実行委員会組織編制

歴代PTA会長を中心に実行委員会を編成(九名)。実行委員長、副委員長を中心に学校に事務局・庶務を置き、①マスコットキャラクター事業部 ②記念品事業部 ③記念誌事業部 ④航空写真事業部 ⑤記念樹事業部 ⑥コンサート事業部 ⑦記念式典事業部を編成。令和四年度より、月一程度実行委員会開催。(学校と連携を取りながら、各事業部は、PTAやOBが主体的に、企画・運営)



桜華ちゃん

① マスコットキャラクター
事業部
令和四年に児童より募集。投票により決定。桜華ちゃんマスコット・桜華ちゃんストラップ作成・配布

② 記念品事業部

記念マグカップ(精華小周辺の地図のイラスト入り)、記念ハンドタオル(桜華ちゃんイラスト入り)作成・配布

③ 記念誌事業部

原稿依頼・構成をすべて事業部で行い、五八ページに及ぶ記念誌の作成・配布

④ 航空写真事業部

全校児童・全職員による航空写真の撮影(創立一五〇年を伝える横断幕の掲示)

⑤ 記念樹事業部

希望者の募り、記念樹を植える穴を掘りその穴に金木犀を植樹

⑥ コンサート事業部

合唱作曲家弓削田健介さんのコンサートを午前児童対象、午後記念式典内で開催

⑦ 記念式典事業部

市長・歴代校長を来賓に迎え令和五年一〇月二一日(土)に記念式典挙行

その他

○ ペットボトルキャップアート(縦一七九cm・横三四六cm)クラスごとに分担して作成

○ 記念テント(桜華ちゃん入り)を学校へ寄贈

三 地域とともにある精華小

創立一五〇年記念事業のために、たくさんの方々や企業から多大なるご協賛とご協力をいただき様々な記念事業を実行した。

主な寄贈品

- ・書「奥の細道」
- ・子供神輿(白木)
- ・絵画「精華の春」
- ・一五〇年記念碑

四 おわりに

コロナが五類に移行となり、様々な行事ができるようになってきた。コロナ以前から、本校のPTAは、学校に任せるのではなく、「自分たちでできるものは自分たちで」という意識が高い。PTA総会資料も、印刷・製本・配布までPTAがすべて行う。精華祭の企画・運営もPTAが行うことが多い。そんな伝統が「地域で支える精華小」という意識を高めている。多くの寄付や寄贈も実行委員の誇りを高めてくれている。この伝統を守りつつ、一五〇年目の伝統を

夢をはぐくみ未来に生きる力の育成を目指して

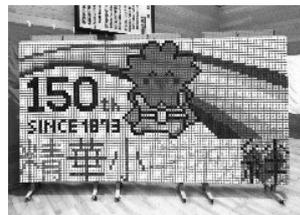
行方・麻生小 秋元 道恵

一 はじめに

本校は、学区内に霞ヶ浦が広がり、地域の豊かな自然と歴史、文化を体感できる環境にあ

作っていききたい。

そんな中、令和六年八月七日に行われた「交通安全子ども自転車茨城県大会」において市内で初めて団体準優勝に輝いた。市の交通安全協会が中心に指導していただいた。こんなところにも地域に支えられた精華小学校を発見できた。



ペットボトルキャップアート



航空写真

域が連携し、子供たちの健やかな成長のために様々な活動に取り組んでいる。

二 学校経営の基本方針

全校児童は二九五名で、何事にも真面目に頑張る、素直な子供たちである。学校教育目標である「夢をはぐくみ、未来に生きる力の育成」の実現に向けて、全職員で協働し、日々の教育活動の充実に努めている。

学校経営の重点を「児童が主体的に学ぶ授業の実践」「互いのよさを高め合える人間関係づくり」「健康教育・安全教育・体力向上のための教育の充実」とし、本年度は「よさを高め合い、たくましさ」と主体性を育む」を組織目標に掲げ、三つのプロジェクトチームを中心に具体的な施策を推進している。本稿では、確かな学力を育むための取組について紹介する。

三 本校の主な取組

(一)算数科校内研究

本年度は、算数科を中心に主体的な学びを目指す授業研究を進めている。キーワードは、

- ・学習者視点での授業構想
- ・児童の主体的な課題設定
- ・児童の学習方法、学び方の主体的な選択、修正
- ・協働的な学習での学びの深化

である。習熟度別少人数指導やティームティーチング、個

す。普段から、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を目指しています。

四 自然を活かした体験活動

米や町の特産品であるヤーコン等の野菜づくり、ポニーの乗馬体験など、自然や動物に触れ合う活動を積極的に進めています。児童にとつては、農作業専用の長靴を持っていることは当たり前で、赴任した際の頃に、運動靴で畑に入ったら「校長先生、長靴忘れちゃったの？靴じゃ汚れちゃうよ。」と声をかけられたことは、「君原っ子」の力強さを感じた、いい思い出の一つです。

みんなにとつて
学校を目指して

『魅力』ある

桜川・大和中 久下 英彦

一 はじめに
南に筑波山、東に加波山や雨引山を望み、霞ヶ浦へ注ぐ桜川が流れる自然豊かな地域に育まれる本校は、今年で創立六三年目を迎える。

玄関ホールには、校訓「より高き 心もて 力もて 誇りもて」が掲げられ、来校者や一二

四 おわりに
「学びあい 支えあい 心を育む人づくり」という町の基本理念のもと、今後も、少人数での教育のよさを活かした、特色ある教育ときめ細かな指導に努めてまいります。



ひよつとこ披露

生徒「心身ともにたくましく活力ある生徒」の三つに整理し、絆UP、学力UP、健康UPの各プロジェクトで、その実現を図っている。

三 特色ある学校経営の取組

学校経営を分かりやすく示したものにランドデザイン(以下、GD)がある。GDは、学校経営の全体構想であり、全ての学校で作成し、学校のHP等で公開している。我々学校経営を行うものは、大きく変化している社会の中で、開校以来の教育理念を、今の時代に合った取り組み易い経営ビジョン、経営戦略、経営計画等に準えていく必要がある。その最たるものがGDである。

GDは学校が教職員の総意に基づいて作成し、保護者や地域に示すものである。しかしながらどちらかと言うと、保護者や地域の方々にとつては、身近で馴染み易いものになっていないことが多い。

本校の特色ある学校経営を示すに当たり、GDの作成から実践に至るまでを論じていく。

(一) GDの目標設定

GDを身近なものとして捉えてもらうため、各プロジェクトで設定した目標を、「学校、家庭、地域で取り組む一七の目標」という形で示し、学校、生徒、保護者、地域みんなが達成を目指すこと

を呼びかけた。

例えば、目標①「学校が楽しい九五%」について、生徒にとつて学校が楽しいと思えるために、教職員は生徒主体の学校づくりをする。生徒は、自分たちの学校を自分たちの手で作るという意識で行動する。保護者は、それを後押しする励ましや、支援を行う。地域の方々にも学校行事、学校美化や環境づくりに協力してもらう等、学校が示した目標ではあるが、それを身近なものとして感じ、馴染み易いものになるようにした。

(二) GDの目標の提示

目標は、東京オリンピックの種目紹介やSDGsの目標のようにピクトグラム入りで掲載し、みんなが分かり易いものとなるように工夫した。そのピクトグラムは、本校の美術教諭がオリジナルで作成し、ひと目で分かりやすいデザインとなっている。



一七の目標は、教室、学年フロア、昇降口等に掲示し、月ごとに重点目標を設定して生徒や保護者への浸透を図つ

た。さらに、本校のコンプライアンス推進委員会設定の目標やプレゼンテーションフォーラム発表資料とのコラボも行った。

(三) GDの数値目標と学校評価の運動

GDの目標は前年度二学期末の学校評価結果を受けて、各プロジェクトで項目選定と数値設定を行った。

特に、学力UPプロジェクトでは、二年間の研究指定に伴う研究主題に迫るために、目標の項目を吟味し、それに合わせて今年度の学校評価の項目の修正を図った。また、多くの教員が自己申告書の自己目標に、一七の目標を連動させ、達成度の数値を設定している。現在、総括的な目標⑩「みんなにとつて『魅力』ある学校」に向けて、全職員で実践を積み重ねている。



タブレットの資料を見ながら生徒総会に参加する生徒

特集 2

行財政・調査研究
委員会の要望や取組

令和七年度に向けた「教育行政に
関する要望」——経過と概要——

行財政委員長 朝日 広一

会員の皆様方のご協力により、令和七年度の「教育行政に関する要望書」を作成することができました。特に今年度は回答率一〇〇%が達成でき、感謝申し上げます。

要望書は、八月二十九日(木)大芝静香県学校長会会長から柳橋常喜県教育委員会教育長へ直接提出いたしました。

詳細については各会員へ配付された要望書でご確認ください。



【県への要望事項】

- 一 すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びのために
- (一) 少人数学級並びに少人数教

育にかかわること

- ① 特別支援学級の編制基準の見直し(「いばらき方式の導入」)

- ② 「中学校生活充実支援事業(中一〜三)」の継続

- ③ 少人数教育充実プラン推進事業の実施基準の緩和

- (二) ICT活用にかかわること
- ① 教職員のICT活用スキルの向上に向けた研修等の充実
- ② 情報セキュリティやプライバシー保護に向けたシステムの強化

二 「人財」の育成と学校組織の充実を図るために

- (一) 「人財」の確保と育成にかかわること
- ① 優秀な新規採用者を確保するための工夫と教員志願者を増やす取組

- ② 「新たな教師の学びの姿」を実現する研修体制の構築

- ③ スクールリーダー(管理職)育成のための研修の充実等と連携強化

- (二) 学校組織の充実にかかわること
- ① 加配教員の配置の充実及び会計年度任用職員(非常勤)

の活用方法の見直し

- ② 小学校専科教員配置の拡充
- ③ 専門的・補助的スタッフの配置の拡充
- ④ 未補充の解消のための処遇改善

若手教員の育成の充実にかかわること

- ① 新規採用者への研修体制の強化・充実
- ② 臨時的任用職員(新卒講師等)への研修体制の強化・充実

充実した教職生活の実現のために

- (一) 教職員の働き方改革の推進にかかわること
- ① 部活動地域移行の早期実現
- ② 働き方改革のための人的支援と環境整備
- (二) 教職員の定年延長に関わること
- ① 教職員の職務の特殊性を考慮した勤務・給与体制の構築
- ② 管理職の延長制度等の構築
- ③ 本県教育の一層の充実・発展を図るための市町村当局への助言について

四 業務の効率化に対する理解と協力

- ① 各種調査の精選と作品募集や団体主催行事への参加等についての配慮
- ② 教員の業務を支援する人員の配置及び外部委託業務の拡大・推進(除草・清掃作業等)

ICT活用充実のための予算措置

- ① ICT支援員等の授業サポート体制の充実
- ② 一人一台端末の更新等に係る整備の充実
- ③ デジタル教科書等の整備・充実

調査研究委員会の取組

調査研究委員長 田村 悟

I 活動のねらい

本県学校教育における現状や今日の課題等の調査を通して、

県学校長会が、その解決に向けた提言・活動等を行うための資料を提供するとともに、各学校の特色ある教育活動の推進の一助とする。

II 具体的な活動と進捗状況

一 今日的課題に関する調査と研究(第一部会)

① 第四期中期教育ビジョンの三か年計画の二年度として、実効性のある「人財育成」に向けて、各校内の体制づくりや取組、教員の

活動のねらい

本県学校教育における現状や今日の課題等の調査を通して、県学校長会が、その解決に向けた提言・活動等を行うための資料を提供するとともに、各学校の特色ある教育活動の推進の一助とする。

具体的な活動と進捗状況

三つの部会を組織して、次の四つの活動を行う。

一 今日的課題に関する調査と研究(第一部会)

① 第四期中期教育ビジョンの三か年計画の二年度として、実効性のある「人財育成」に向けて、各校内の体制づくりや取組、教員の

活動のねらい

本県学校教育における現状や今日の課題等の調査を通して、県学校長会が、その解決に向けた提言・活動等を行うための資料を提供するとともに、各学校の特色ある教育活動の推進の一助とする。

具体的な活動と進捗状況

具体的な活動と進捗状況

具体的な活動と進捗状況

特別寄稿



後藤新平先生の「自治三訣」に想う

龍ヶ崎市教育委員会教育長 大古 輝夫

令和三年度末、龍ヶ崎小学校の校長として定年退職を迎えました。新規採用教員として赴任したのも同校です。三度勤務した小学校であり、深い思い入れがあります。先輩からいただいた、厳しくも温かいご指導やご助言を今でも大切にしています。

求めぬよう」という言葉が妙に気になり、先生に質問してみました。先生は、「三つの中で、これが一番難しい。」とだけおっしゃいました。「むくいを求めない」この意味が理解できた頃には、「自治三訣」のことを忘れてしまいました。

他の言葉も教えてくれました。この言葉には、聞き覚えがありました。これも後藤先生の言葉だと知り、深い感銘を受けました。そして、後藤先生の見方や考え方に興味をもち影響を受けました。

時が過ぎ、行政職、管理職になると後藤先生の言葉の深さをさらに実感しました。現在、校長先生に求められている人材（人財）育成の目的や手掛かりが、後藤先生の残された「金言」に示されているのではないのでしょうか。定年退職前の二年間は、校長室の壁に掛けられた「自治三訣」の扁額に見守られながら学校経営に努めました。今でも、学校訪問等で龍ヶ崎小学校の校長室に通されると扁額が目が行きます。そして、「私は、多くの先輩の世話になったが、後輩のお世話をすることはできただろうか。そして、むくいを求めることはなかっただろうか。」と想うのです。

四 全連小・全日中の調査及び編集等への協力
○全連小各種委員会の調査協力
次の九つの調査について、各ブロック毎に分担しながら実施する。
・八月 調査依頼
・八・九月 回答
【調査内容】
・教職員定数改善等
・教育環境整備等
・教員養成
・教育課題
・教育課程
・人材育成
・人権教育
・健全育成
・特別支援教育

す。その中でも「マイベストを尽くす」は座右の銘になりました。教員人生に大きな影響を与える「金言」に出会えたことは幸せでした。厳しい言葉ではあっても、慈愛に満ちた言葉には人を動かす力があります。たくさんの「金言」をいただいききましたが、言葉の意味を深く考えるようになつたきっかけは、小学校五年生の時まで遡ります。

それから約一〇年後、新規採用教員として龍ヶ崎小学校に赴任しました。校長室に案内され壁に掛けられた扁額の文字を読んで驚きました。力強い文字で書かれた「自治三訣」がそこにあったのです。勤務を終えて帰り支度をしていた先輩に「自治三訣」のことを聞いてみました。すると、「後藤新平先生というボーイスカウトを結成し、育成した人が龍ヶ崎小学校に講演にいらした時に書いてくださった」と説明してくれました。さらに、扁額を見ながら「金を残して死ぬのは下だ。事業を残して死ぬのは中だ。人を残して死ぬのは上だ。」「一人に人、二人、三人」という後藤先生の

二 特色ある教育活動に関する調査(第二部会)
○各小・中・義務教育学校の研究・研修の充実発展に資することを目的に調査を実施し、結果を県学校長会Webページに掲載する。
○進捗状況
・七月 調査依頼・集計
・八月 集約・Webページ作成
・九月 Webページ掲載

三 勤務実態(時間外勤務時間)に関する調査(第三部会)
○全小・中・義務教育・特別支援学校を対象に、超過勤務時間等を調査する。
○進捗状況
・九月 調査依頼
・十月 調査
・十一月 集計
・十一月・十二月 集約・考察

○全日中「全国中学研究校便覧」の掲載校を各ブロック毎に一校ずつ推薦する。
掲載校は次の五校
・水戸市立飯富中学校
・日立市立大久保中学校
・行方市立玉造中学校
・土浦市立都和中学校
・古河市立三和中学校
推薦にあたっては、第二部会の特色ある教育活動に関する調査等を参考にします。

当時、朝の会で「自治三訣」を唱えていました。「人のお世話にならぬよう、人のお世話をすよう、そしてむくいを求めぬよう」にはどのような意味があるのか、先生の説明を聞き逃したのでよく考えずに口にしていました。そのうちに「むくいを

求めぬよう」という言葉が妙に気になり、先生に質問してみました。先生は、「三つの中で、これが一番難しい。」とだけおっしゃいました。「むくいを求めない」この意味が理解できた頃には、「自治三訣」のことを忘れてしまいました。

他の言葉も教えてくれました。この言葉には、聞き覚えがありました。これも後藤先生の言葉だと知り、深い感銘を受けました。そして、後藤先生の見方や考え方に興味をもち影響を受けました。

時が過ぎ、行政職、管理職になると後藤先生の言葉の深さをさらに実感しました。現在、校長先生に求められている人材（人財）育成の目的や手掛かりが、後藤先生の残された「金言」に示されているのではないのでしょうか。定年退職前の二年間は、校長室の壁に掛けられた「自治三訣」の扁額に見守られながら学校経営に努めました。今でも、学校訪問等で龍ヶ崎小学校の校長室に通されると扁額が目が行きます。そして、「私は、多くの先輩の世話になったが、後輩のお世話をすることはできただろうか。そして、むくいを求めることはなかっただろうか。」と想うのです。

四 全連小・全日中の調査及び編集等への協力
○全連小各種委員会の調査協力
次の九つの調査について、各ブロック毎に分担しながら実施する。
・八月 調査依頼
・八・九月 回答
【調査内容】
・教職員定数改善等
・教育環境整備等
・教員養成
・教育課題
・教育課程
・人材育成
・人権教育
・健全育成
・特別支援教育

※校務御多用のところとは存じますが、引き続き各種調査への御協力をお願いいたします。

経営研究

創意工夫を生かした 特色ある教育課程

「夢道場」で生きる力を

「伝統の中での改革」

久慈郡・さほら小 相田 清美

一 はじめに
茨城県北西部に位置し、奥久慈茶の産地として多くの茶畑に囲まれた本校は、児童数一八名、完全複式の小規模校である。今年度の組織目標は『楽しい！』『おもしろい！』から始める学び・体験の工夫」とし、小規模校のメリットを最大限に活かした特色ある教育を展開している。

二 特色ある取組
〔一〕「夢道場」
「子ども応援夢道場」として、学校農園を「道場」に見立て、年間を通して野菜を栽培・管理・販売する活動を通して「生きる力」を育んでいこうと、学校・保護者・地域の連携により始まった一九年目となる取組である。野菜作りには素人である教職員と児童が試行錯誤しながら畑を耕し、一粒ずつ種を蒔き、除草・虫の駆除、水やりを続けながら日々の成長過程を観察する姿

にはたくましさを感じる。天気や気温・野菜の病気等による失敗や不思議は、地域の「夢道場アドバイザー」に教わりながら多くの野菜を栽培している。

大切に育てた野菜は、地域の協力により「道の駅」での対面販売を実施している。手持ち看板や野菜を使ったレシピアの作成、お客様へのお礼や次回のご案内の手紙を書く等、「夢道場」に関する一連の取組は、総合的な学習をはじめ、国語科や算数科、理科、社会科、生活科等につながる教科等横断的な学習であり、学校で学んだことを校外で実践できる貴重な機会である。

〔二〕さほらファミリー会社
「夢道場」の活動を全校児童で運営する模擬会社。「社長」を核として「生産部」「販売・広報部」「さほらJr」に分かれ、各部の部長を中心に活動を進めて一二年目となる。今

年度から新企画を考えた場合、部長が「企画書」を提出し、部長会議・職員会議で検討することにした。よりリアルな会社体験を通して小学校でのキャリア教育の充実を図っていきたい。

〔三〕さほらっ子総会
全校児童による話し合い活動。全体会、各部での話し合い、全体会の流れに沿って意見交換を行ったり共有したりする場となる。昨年度から社長を会計にも関わらせ、収入や出費を計算し、お金の収支を経験させることにした。利益の使い道については「さほらっ子総会」で話し合い、昨年度はロボット掃除機を購入した。各教室を一週間ごとに交換しながら活用することで、少人数のため負担の大きかつ



「道の駅」販売の様子

「豊かな心で自ら学びたくましく 生きる児童の育成」を目指して

神栖・波崎西小 飯島 直之

本校は、北に鹿島臨海工業地域を臨む場所に位置し、全校児童一四一名の小規模校である。「豊かな心で、自ら学び、たくましく生きる児童の育成」を目指し、活力ある学校づくりに努めている。

一 話し合い活動を重視した豊かな学びの充実

た教室掃除が軽減され、特別教室や廊下等の清掃に定期的に取り組めるようになった。

三 おわりに
人との関わりが少ない子供たちが、今後大勢の人と関わる世の中へ、自信をもって一歩を踏み出せるよう、伝統を大切に守りながら改革を進めていく。

神栖市学習スタイルを自校化した「西小スタンダード」による授業展開を行っている。具体的には、児童司会を取り入れた話し合い活動を中心に、学びをつなげる発問や主体的に学ぶ態度につながる振り返りの工夫により、「分かった、できた」が実感できる豊かな学びにつなげてい

る。

二 「は・あ・と」ふるweekの実践
愛校心の涵養、いじめをしないうという実践的態度、人権感覚を身に付け、人権意識を育てるために、年二回、各二週間にわたって次のような取組を行っている。

【第一期】①児童が中心となったいじめゼロスローガンの決定
②いじめゼロ集会の実施
③波崎西小に関わる歴史等についての学習

【第二期】①人権に関する読書活動の充実と読み聞かせ
②発達段階に応じた人権意識向上に向けた学習の充実

【両期】①清掃活動の充実（無言清掃）
②道徳の授業の充実（ブロック道徳の実施）

三 地域人材を活用した体験活動の充実

年間を通して地域の特産である「千両」の栽培を地元農家の方の協力を得ながら行っている。収穫した千両は、年末に販売し、売り上げをウサギの飼育費用に活用している。この取組は、児童が地域の産業に関心をもつとともに、働く人への憧れや働くことについて考える機会となっている。

四 ミニマムグレイド・チャレンジ
各学年で身に付けたい内容を検定にし、年間を通して取り組

る。



「千両」を収穫した児童

んでいる。

- 一年・・・カタカナマスター
- 二年・・・かけ算九九マスター
- 三年・・・ローマ字マスター
- 四年・・・都道府県マスター
- 五年・・・算数マスター
- 六年・・・歴史人物マスター

児童は、合格に向けて頑張る、「やればできる」という自信をもつことにつながっている。

五 おわりに

本校の児童は、各教科における話し合い活動の充実と各領域等との往還により、話し合いのスキルを身に付け、他者と協働して主体的に活動している。今後とも全教職員で豊かな心の育成と豊かな学びの展開に努めるとともに、児童一人一人の自己肯定感・有用感を高め、笑顔が輝く、活力ある学校づくりに尽力していきたいと思う。

独自の教育課程で学習効果の最大化と働き方改革をめざす取組

守谷・守谷中 直井 健治

守谷市では施政方針において「わくわく子育て王国もりや」を掲げ、令和元年度より「もりや型教育改革」(第一ステージ)をスタートさせた。今年度は、第二ステージとしての「未来の教育もりやビジョン」の三年目を迎え、更なる進化を遂げるべく「もりやビジョン2024 ニューノーマル2」を市内全小中学校一三校で進めている。

一 小中共通の特色ある取組

(一)週三日の五時間授業の導入
令和元年度に打ち出した「学校教育改革プラン」の中心が、「守谷型カリキュラム・マネジメント」(週三日の五時間授業)である。前後期制の導入や夏季休業の五日短縮などにより、授業時数を確保しながら、児童生徒と教職員双方の日常の負担を平準化した。これにより生じた週二時間以上の放課後のゆとりが、学習効果の最大化と働き方改革の両面に大きな成果をもたらして、今年で六年目になる。

(二)オンライン英会話の導入
教育課程特例校として小中九年間の系統的な英語教育を重視してきた本市の新たな取組である。中学校全学年と小

学校五・六年生が、外国人講師と一対一でのオンライン英会話に取り組んでいる。目的で必然のあるやりとりは、児童生徒を本気にさせている。

(三)いじめ・不登校児童生徒への支援
市内八小中学校(全四中学校と九小学校のうちの四小学校)で空き教室を利用した「校内フリースペース」を設置し、教員免許をもつ市職員が配置されている。さらに今年から中学校区に一名ずつ、計四名のスクールソーシャルワーカーも配置された。児童生徒だけではなく、保護者への支援も丁寧に行える人的資源を有効に活用したい。

二 校種別の特色ある取組

(一)小学校教科担任制の導入
小学校の五・六年生の「理科」「音楽」「図工」で専科教員を市費で配置して五年目になる。児童の教科好きの増加や学力向上はもちろん、学級担任の空き時間(最大週六時間)の確保という点でも成果の大きな取組となっている。

(二)守谷型カリキュラム・マネジメントを生かした部活動

改革

中学校では「週三日五時間授業」の放課後に行う部活動に対する基本的な考え方を見直した。「部活動も授業のよう」に単位時間を基本とすれば、メリハリのある効率的な活動となる」という考えに基づき、活動時間を五〇分単位で捉えた。五時間授業の日は五〇分二コマで一〇〇分、六時間授業の日は五〇分一コマとして活動することによって、通常時は生徒が一六時五〇分には完全下校できるようになった。

これからも本市では、取組を継承・継続・深化・発展させながら、学校教育の「ニューノーマル」を発信し続けていきたい。



上海の閔行区実験小との交流の様子

未来を拓く明るくたくましい明野つ子を育てる「明野未来デザイン科」の学び

筑西・明野五葉学園 入山 克巳

本校の特色ある取組として、「明野未来デザイン科」があげられる。文科省教育課程特例校の申請・指定を受け、総合的な学習の時間の目標を踏まえつつ、探究的な学習と外国語活動から構成される独自の教育課程として創設した。郷土の教育資源を活用しながら、明野五葉学園の三つの柱、「郷土愛を育む教育」「キャリア教育」「グローバル教育」に係る学習を展開しながら、既存の教科(社会、生活、

音楽、図工、体育、特別活動)で、時数の組み替えを行い、教科等横断的な学習を九年間の学びの中で実施するものである。また、グランドデザインの他にも、知徳体の他に、「自分らしい生き方」を加えた四つの指導内容として示した。

目標は、「探究的な学習を通して、明野地区(筑西市)の未来を担い、国際社会で活躍するためのスキルを育てるとともに、グローバルな視点をもって、自

課題



若手への関わり

県学校長会副会長 小松崎 龍太郎(土浦・新治学園義務教育)

「教育は人なり」という言葉どおり、子どもたちに接する先生方には教員としての力量が求められます。どの学校でも優れた教員の確保と養成は極めて重要な課題となっていることと思います。しかし、教員採用試験の倍率が低下する傾向が続き、国や県では制度や運用を変更して、教職の魅力を引き上げたり、受験しやすい環境を整えたりする等、教職離れを解消する改革を進めています。学校でも令和の日本型学校教育を追究する中で、一人一人の教職員が働きがいを感じる、働きやすい職場環境づくりに尽力している最中だと思えます。

「そんなの使えない…」四月に某任意団体の会合に出席したとき、私より二回り近く年上の元校長先生が呟いた言葉です。会合の中で、部活動の地域移行について講話を伺っている時でした。部活動指導員を集めるため、現役の大学生に部活動の説明をした時の話がありました。「現在、土日のうちどちらか一日だけの活動になっています」と説明すると、大学生から「どちらか一日は必ずあるのですか。」と言われたとのこと。この時に呟きが聞こえました。鍋蓋型の学校組織で、担任として、教科担当として、部活動顧問として、求められることすべてに応えようと食らいつく姿勢が当然と考えられていた時代に、食らいつくやりに達してこられた方だからこそ呟いてしまったと私は受け取りました。

五月に開催された全連小総会・研修会に参加させていただきました。研修会では文科省から行政説明がありました。初等中等教育局教育課程課長武藤様の講話で、「二〇二二年度の某新入社員の調査によると、「三年以内二八・三%、四〜五年以内一八・八%」が転職を考えている」と回答があったとのことがありました。

二つの出来事は、教員志望者に限ったことではありませんが、今の若い世代の風潮の一面と捉えています。それだけに、過去の成功体験や先人が築き上げてきた手法を大切にしながらも、若手に敬意をもって関わり、思いを受け止め、共に悩み、考え、良さを伸ばす姿勢を心がけています。

七月中旬勤務校の代表メールアドレスに、デザインツール「Canva」からのメールが届きました。内容は使用登録が失敗していることの連絡で、あて先は採用四年目の校内ICT推進委員でした。確認すると、Canvaが授業で便利に活用できるといふ話を聞き、使ってみたくと思ったとのことでした。県教研の第二回フレッシュ研修について校内周知をしていたので確認すると、本人はわかっていたにもかかわらず、改めて紹介すると、喜んで申し込み、受講しました。八月中旬の校内研修で研修内容の伝達をお願いし、全職員でCanvaを使用してみました。彼には「ありがたう。お陰様で、先生方皆すすもにも、彼に対する対話が足りなかったと反省しました。」

私は、昭和・平成・令和の時代にまたがって仕事をしてきました。だからこそ、時代の変化、世代の変化を受け止め、配置された若手が、教員として働きがいをもって成長していくことを願い関わっていききたいと思っています。

また、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力は、①問題発見・解決力 ②論理的思考力 ③情報活用力 ④コミュニケーション力 ⑤自他を尊重し認め合う態度 ⑥積極性・行動力 ⑦自己管理能力の七つである。これらの資質・能力は、校訓「自立(⑥⑦)・協働(④⑤)・創造(①②③)」に合わせて設定した。

一例として、郷土愛を育む教育では、地域を知る活動として、前期課程低学年で通学路を歩いたり地域を歩いたりする。中学年で明野地区を紹介しボランティア活動をする。またエコライフを考えたりエコグッズの開発をしたりする。高学年で明野オリジナル名産品を考える。また伝統文化を知るとともに体験活動を行う。後期課程では、明野・筑西市の魅力を発信し、未来のまちづくりを考える。さらに将来の自分や市へのメッセージを考え、未来に夢を実現させるための「未来設計図」を作成、提案する。

このように、九年間の「学び」の系統性や「育ち」の連続性に配慮するとともに、学ぶことと将来をつなげるキャリア教育を核

とした探究的な学びを実践していく。



8、9年生ひまわりフェスティバル運営ボランティア、9年生が製作した記念品を来場者に配布、会場案内等



5年生ひまわりフェスティバル種蒔き



市町村教育委員会と学校長会

東 行方市教育委員会との連携

行方・麻生東小
河野 貞夫

行方市学校長会は、小学校四校、中学校三校の計七校で構成されており、行方市教育委員会（以下、市教委）と密接な連携を図りながら、市の施策の実現に向けて学校経営を進めている。

行方市の教育は、行方市学校教育プランの基本目標「新たな価値を創造し、郷土と社会の未来を切り拓く人間の育成」を目指し、プランに示された学校経営上の具体的な施策の基本となる計画によって進められる。

一 行方市学校教育プランに基づいた学校経営と評価

行方市は、小規模な地域であることから、市教委と全ての学校間が連携しやすい。小中学校（以下、各学校）における教育活動は、市の施策に基づき、校長の学校経営ビジョンや地域の実態等、各学校の独自性を反映した取組も柔軟に実施できる。

学校教育プランでは、重点施策が五つに大別して示されている。

①学力向上 ②豊かな心 ③いじめ、長欠・不登校対策 ④特別支援教育 ⑤幼児教育の五施策である。この施策

は、前年度の各学校の学校評価を基に毎年改善され、数値目標等も設定されている。その評価についても、共通の視点による評価が多いことから、全校が協力して改善に取り組むことができる。また、市教委も各学校の現状を的確に把握し、共通する課題と解決のために学校と連携して、施策の実現に向けた支援と改善を推進している。

二 定例研修会による共通理解と連携

毎月一回実施している定例研修会は、小中学校長と三つの幼稚園長が合同で行っている。これは、本市が重視する幼小中連携の一環であり、各教育段階における施策を共通理解の基に進めるといふねらいがある。特に、幼小間、小中間の接続が円滑に行えるよう、市教委が先導して連携を深めている。

また、学校経営にかかわるPDCAサイクルの中でも、特に市教委が重視するCからAについて、全学校の共通理解のもと

に進められることで、学校改善のための課題把握と改善の方向性が明確となつている。

三 市教委による学校への支援措置の充実

市教委が設定する各学校の取組に対する評価は、最終的に市教委の施策に反映されるため、教育現場としては、学校改善を推進しやすいと言える。また、市派遣職員等の人事や予算等にも反映され、各学校への支援が迅速に行われている。

以上のように本市では、市教委と各学校の組織的な連携を円滑に行える体制が確立していると言える。今後も、この組織力を生かした学校経営を進めていきたいと考える。

南 稲敷市教育委員会との連携

稲敷・新利根中
亀山 浩二

稲敷市学校長会は、小学校八校、中学校四校の計一二校で構成されている。令和六年度に策定された第三期稲敷市教育振興基本計画における基本理念「郷

土を愛し未来にはばたくしなやかな人づくり」の下、「すべての子どもの可能性を引き出す活力に満ちた信頼される学校づくり」を共通テーマとし、その実

現に向け、日々の教育実践に取り組んでいる。毎月の定例研修会では、市教委から教育長及び指導室長を招き、指導助言をいただきながら、学校長会と市教委が連携を図っている。本年度当初には、教育長から、次の七つのエールが送られた。

【①腹のすわった校長に ②自論を持った校長に ③人がついてくる校長に ④子どもの姿で勝負できる校長に ⑤教員を育てる校長に ⑥すべてを守る校長に ⑦地域に好かれる校長に】

各校長は自覚と責任をもち、江戸崎・新利根・桜川・東の四地区が連携協力しながらそれぞれが学校経営に尽力している。

一 充実した研修体制の構築

学校長会内に研修部が組織され、定例で服務規律の確保、人財育成、学力向上等、様々な課題について市教委の指導助言を基本に、情報共有・協議を重ね、研修を深めている。教育に携わる地域団体やスクールロイヤー

等の外部講師を招聘した研修、市教委職員を講師としたQ-U調査分析に係る研修等も確保され、充実した研修体制が構築さ

れている。

二 学校運営協議会設置と協働
令和六年度には、市内全校に学校運営協議会が設置され、市教委生涯学習課の支援の下、教育目標や教育課題について、共有・協議・協働を進めている。

具体的には、公民館と学校が連携した教育活動の実践、地域人財の集約と確保及びび学校行事や授業への地域人財の活用を通じた実践を進め、「地域とともにある学校づくり」の実現につな

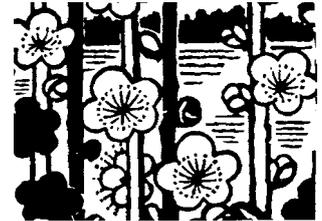
三 こ幼保小中連携活動の推進と英語教育の充実

稲敷市では、子どもたちの社会性と自主性・自立性をこ幼保小中の一二年間で一貫して育むために、市教委と学校長会が連携し、こ幼保小中連携事業を推進している。各中学校区で、認定こども園、幼稚園、保育園、小中学校による毎月定例の連携会議を実施し、交流活動を推進している。本年度は、市教委の支援を受け、園小中のALIT配置の充実、英検対策講座の開催、小中合同での英検受験補助事業推進等、小中連携による英語教育の充実が図られている。

今後も、未来を担う「いなきっ子」の育成に向け、市教委と学校長会が連携強化し、進化発展のある教育活動を推進していく。

梅のかおり

—先輩校長から—



縁ある出会いに感謝



立市長
市立
美玉
小南中
小川白井
白井 律子

我が家のすぐ近くの交差点を左折した道が、私の教員生活大半の通勤路でした。

通勤時に見かけた、お母様らしい方に見送られ登校していた小学生は中学生や高校生になりました。造成地には家が建ちました。成長したり変化したりしたのも多くありましたが、季節を楽しませてくれた満開のサクラやモクレン、ハスの花、コスモス、そして、いつもこの角に、あの交差点に立ってくださったっていた方々の姿は、変わらないホッとした光景でした。

児童生徒や同僚、先輩方はもちろん、地域や保護者の方を含めると、退職までにどれだけの方と出会いがあったのかと考え

てみましたが、正解を出すことはできずにあります。退職の日が近づいたときには、多くの方との再会もあり、月並みですが、出会いに感謝のことはしか見つけられませんでした。

「人は出会うべき時に、出会うべき人と出会う。それは、遅くもなく、早くもなく…」という言葉をお世話になった先輩の先生から教えていただきました。振り返ると「あの時、あの方との出会いがあったから…」と思うことがあり、今、改めて縁ある出会いに感謝をしています。

この春からは、交差点を直進した道が通勤路になりました。見える景色が変わりました。これまでとは見え方も変わったように感じています。

新たな出会いもありました。縁あつての出会いをこれから、そして、この先も大切にしていきたいと思えます。

言葉でなくとも伝わること



立市長
町立
城山小
前山松
島 正人

感染症対応が一段落し、定年延長も導入された年に退職の時期を迎えた。教育改革など社会

の変化が加速する今をどう生きていくかは児童や生徒だけでなく、導いていく私たち教職員にとっても重い問題である。

退職したら趣味を大切にすべきだなど、最近の会話では今後の生き方の話題が多くなつた。これといった趣味がないので困つたことになつていく。

しかし、私は時刻表を愛読してきた。それは数字の羅列であり調べるもので読むものではないと一蹴されるが、趣味であることには違いないと思つている。確かに時刻表は何の主張もしていない。ところがその数字から、今この時刻に高原の爽やかな涼風を感じて清里に到着した列車、その同時刻に塩狩峠の寒々とした原野を力強く走る列車などを思い描ける。

また、言葉ではなく語られたことはもう一つあり、教職に就く先輩方からである。誇り高く何にも動じない姿から教員としての矜持を、心優しく高い指導力を発揮する姿から教員の専門性とは何かを、言葉ではなく教えられた気がする。今にして思えば何と幸運だったことか。教員としてそうありたいと願つてきたが、語つてばかりだったと恥じつつもそう思う。

さて、これからは時刻表の旅を実際にと強く意気込んでいたが、思いのほか忙しく「銀河鉄道」のような列車に乗り「波の見

える風景」から「五月の風」を感じるはずだったが、しばらくの間は実現できそうにない。

大事にしたい

三つの目



立市長
市立
日市
助川小
前川山
森 秀一

一つ目は、「笑顔」です。最後の二年間を勤務した小学校で、朝の登校指導の際に、「校長先生、今日も絶好調ですか。」と私に尋ねる児童がいました。「絶好調だよ。」と答えていました。が、いつもそうであるはずはなく、笑顔をつくり、絶好調を演じていたことも度々ありました。

しかし不思議なもので、頭の中が諸問題で一杯になつていても、笑顔になると、心が軽くなります。物事が良い方向に向かうような気がしてきます。カラ元気であつても、笑顔でいることは大事だと実感しました。

二つ目は、「自分らしさ」です。新任の校長として勤務した時、前任の校長先生や周囲の校長先生のように学校経営ができるだろうか、とても不安になつたことをよく覚えています。

他の校長先生方から学ぶことはもちろん重要ですが、できそ

うにないことを無理にやろうとするよりも、自分のできることを精一杯やること、自分の持ち味を活かすことが何より大事だと思います。

三つ目は、「正しい後ろ姿」です。職員や児童生徒をはじめ、保護者や地域の方々は校長先生の後ろ姿をよく見ています。日頃話していることややっていることが一貫していないと、信頼は得られません。

校長先生の後ろ姿を見て、職員や児童生徒の安心感と信頼感が生まれ、やる気もいっそう高まり、保護者や地域との協力体制も強固なものになるのではないのでしょうか。皆様の益々の活躍をお祈りしております。

褒めて育てる



立市長
市立
神栖中
神第四
安藤
光弘

学校現場を離れて三年目を迎えました。再雇用で教育関係の仕事に従事していますが学校の情報量は少なくなりました。I新聞の地域欄を読むことは、多くの学校の特徴ある教育活動を知る情報源であり楽しみの一つです。

退職までの二年間はコロナ対応に追われた日々でした。学び

ちの学習の中でも取り入れられ
たらと改めて思う。今年度は初
任者の指導教員として勤務して
いる。担当させていただいて
いる。担任は日々の授業をつくる
ときに「学習課題をできるだけ
日常の生活と結びつけたいで
す。」と授業づくりにとっても前向
きに取り組んでいる。授業を参
観すると子供たちの学んでみた
いという気持ちも伝わって
くる。日々の生活の中で出てくる
様々な疑問や問題を、私もこの
子供たちのように好奇心をもっ
て学び続けていきたいと思う。

よい加減



立長 石井 俊之
前・立長町立
小学校校長

役職定年という新しいシステ
ムに戸惑いながらも、多くの
方々に支えていただきながら、
校長としての重責を自分なりに
果たすことができたと思ってい
ます。感謝の気持ちでいっぱい
です。

終盤はコロナ感染症対策、コ
ンプライアンス対応に追われま
した。がんばりがらめの中、決断
を迫られる場面で大切にしてい
たのは「おおらかに」そして「よ
い塩梅に」。折しもパリオリ
ンピックで数々の名勝負が繰り広

げられる中、同時に起こる誹謗
中傷の言葉。目にしたくなくて
も入ってくる情報。バルセロナ
オリンピックのマラソンで谷口
選手が残した「こけちゃいまし
た」。靴を踏まれたことをさらつ
と避け、軽妙に受け答えする姿
を思い出しながら「寛容」とい
言葉の意味と再度向き合いたい
と考えました。

悲壮感のない「スケードボー
ド」競技では解説者からの「やば
い。はんばねえ。」の連発。違和
感がないどころか、この競技の
魅力にも出会いました。

高校野球もしかり。ダイジェ
スト番組の企画ですが、「手紙」
という媒体で自分の気持ちを伝
える場面がありました。「思い・
言葉・行動」のバランスがとれ
れば、ふさわしい言葉で相手と
向き合うことができる。なん
だ、高校生も捨てたもんじゃな
い。

四月には初任者指導教員とし
て四人の先生方と出会いまし
た。カーナビから「道に迷うと
無駄に燃料を消費します」と言
われてしまう私ですが、若い先
生方との距離感を大切にしま
ら、「いいかげん」ではなく、「よ
い加減」でお互い成長したいと
思っています。



図書案内

70歳からの正しいわがまま

著者 平野 国美

「終」から「生」を学ぶ
稲敷郡・朝日中 友野 和也

取りの医者」を自認する終末期
医療の訪問医になったのが分
かった。
それは、研修医時代のこと
である。ベテラン看護師宅に招か
れ、寝たきりの老人を紹介され
た。「父の最期を自宅で迎えさ
せてあげたい。最期の幕引きを
してほしい。」と懇願されたそ
うだ。

しかし、彼も当時は「死」は医
者の敗北ととらえていたよう
で単純に決心がつかなかったそ
うである。

笑い話だが、その老人を看取
る時、下戸の彼は泥酔状態だ
たそうである。そのため危篤の
連絡を受け、自宅に駆けつけ、
いよいよという時に意識を失
い、老人の隣に寝かされたそ
うである。しかし、その時の老
人と家族の臨終場面の感動、病
院で延命治療を全て施した後
のそれとの違いに心が揺さぶ
られたようであった。(詳細は
本書で)

さて、そろそろこの本の内容
に触れたいと思う。彼の患者
は治療したり回復したりする
人ばかりではない。彼はこの二
〇年間で二七〇〇人の患者を
看取ってきたそうである。しか
し、本書の内容は決して暗い「死
」を連想させるものではない。
逆に「死に向かう者」から「生
きる力」が感じられるものであ
る。読み終えた後に、人生に
対する視野の

広がりと「生きる力」が静かに
沸き立つ心地よさが感じられる
のである。
残りの紙面で本書の内容をい
くつか抜粋で紹介する。
・がんを患いながらも八〇歳
で英会話教室に通い始めた女
性
・七〇代で初めて念願のマイ
ホームを持った女性
・初めて人を治療する立場に
なった元医学部の教授
・九〇歳を超えて初めてぬり
絵に出会い、塗り絵のこつを
つかんだ日本画の大家
・余命を宣言されても、とっ
かえひっかえ女性とのデート
を楽しむつづきのイタリア男
その他、ユニークな生き様を
みせてくれる患者の姿が軽快
に描かれている。

著者との四八年ぶりの再会の
帰りがけに、彼は「あ、そう
だ。礼を言わなくちゃいけない
ことがあったんだ。六年生の
持久走大会の時、友野が『お前
と一緒に走ってやる。』と言っ
た。お陰で最後まで走れた。あ
の時があるがどう。」
「走ってやる?」こちらはそ
んな高飛車な発言を全く覚え
ない。しかし、良いにつけ悪
しきにつけ受けた方は忘れない
ものだろう。四八年ぶりに再
会し、四八年前のお礼を言わ
れるとは、友達とは何とありが
たなものか。

結論から言うと、この本は「生
きる力」を軽快に与えてくれる。
令和五年の六月、本校の前
に在る医療系の老人ホームの理事
長が訪ねてきた。要件を伝えた
後の帰りがけに、「うちの医療
担当医は業界の先駆者で本も出
版しています。」と、バッグの中
から二冊の本を取り出しテー
ブルの上に置いた。
私は本の帯に大きく写ってい
る人物にまず目がいった。なぜ
か脳裏に引っかかるものを覚え
て、著者名を探した。「えっ?」
驚いたことに著者は何と小学校
の同級生であった。
二ヶ月ほど経ったある日、彼
は私を訪ねて来てくれた。
四八年ぶりの再会である。
小学校時代の思い出、彼のそ
の後の人生や仕事のことなどを
聞くことができた。小学校時代
の彼は、誰もが認める頭脳明晰
な天才であった。唯一走るこ
とは苦手だった。
話を聞いて、彼がなぜ「看

ひばり



学校って、誰のもの？

小美玉・小川南小
佐藤 雅記

「学校って、誰のもの？」という質問を本校の職員にしました。

担任をしている先生方の答えは、「子供たちのもの」です。子供たちを中心にした、すばらしい答えです。

でも、学校を経営する立場になると、その答えには、やや物足りなさを感じます。なぜなら、子供を取り巻く環境には、保護者や地域の方々がいるからです。また、子供たちも六年経つと、小学校から巣立っていき

ます。学校は、その場所に存続し続けます。本校も統合六年目になります。今後この場所で、長い歴史を積み重ねていくことで

しょう。

私が考えた答えは、「地域のもの」です。学校は、長くその場所に存在し続ける地域のランドマークです。

そして、地域は「土」です。どつしりと、学校を支えてくれます。私たち職員は「風」です。子供たちと同様、本校にずっと勤務できるわけではありません。風である私たちは、本校に勤務できる間、地域の宝である子供たちの成長に大きくかわつていかなければなりません。

ふるさとを学ぶ

東茨城郡・大洗小
野上 幸広

現任教では、海洋リテラシー教育に取り組んでいる。

漁船に乗って太平洋にでる「漁体験」では、潮風の中、文字通り採れ立ての生シラスが味わえる。「磯遊び」では、干潟の小魚やカニ、イソギンチャクなど多様な生物に出会い、児童と一緒にワクワクする時間を過ごすことができる。しかし、子供たちと活動すると、砂浜のゴミの多さにも驚かされる。マイクロナスタックを使ったキーホルダーをつくることで、子供たちが問題意識をもつきっかけになっている。

子供たちの生き生きとした表情に出会えるこれらの活動は、身近で、実際に触れることや、体験できるふるさと教材の素晴らしさを感じる。

また、これらの活動は、PTAのOB・OGをはじめとする地域の方々を支えられている。「子供たちのために」と取り組んでくださる姿にはいつも頭が下がる思いである。

これからも地域の方と力を合わせ、ふるさとを愛する子供たちを育てていきたい。

電子図書館始めました

常陸太田・世矢中
黒澤 祐一

最近、本を読む時間が少なくなったと感じていた。そんな折、本校の生徒に市の図書館にある電子図書館を導入した。生徒たちは、興味深く好きな本を検索したり、本を借りたりしていた。自分も興味をもつたので、この夏に電子図書館の利用を始めた。

電子図書館の最大の利点はそのアクセスの容易さである。閲覧者はどこでもインターネット環境さえあれば書籍や資料にアクセスできる。次に、電子図書館での調査や情報収集は、従来の図書館にはない速度と効率性を提供する。さらに、本を置くスペースをとらないこともSD

Gsであり重要な要素である。

初めての利用ということで、今興味のある俳句と将棋、エッセイ、三冊借りてみた。借りるのに、煩わしさが一切ない。返却も容易である。スマートフォンで文章を読むことに、抵抗はあつたが多くの書物に出会えることに喜びを感じている。これから先、秋の夜長に読書はよいが、楽しみ過ぎて寝不足にならないか、今から心配である。

保護者の思い

鹿嶋・大野中
神取 克英

四月に孫が小学校に入学した。息子夫婦は、入学一年前に地元へ転居し、特定の友達しかいない孫が、学校生活にすぐ慣れるのか、友達はできるのかと心配していた。

学の際に、そんな心配をした記憶がなかった。教員として、学校が、新人生に対する様々な手立てを考えていることを知っていたからであろう。

入学式の日、幼稚園時代に仲の良かった友達と同じクラスにいないことで落ち込んでいた孫を見て、息子夫婦はさらに心配していた。しかし、五月を迎える頃には、孫は友達もでき先生も優しく学校が楽しいと言いつつ、息子夫婦も安心していた。小学校の先生方の細かい配慮のおかげであると感じた。

やはり、息子夫婦のように保護者は、自分の子供のことを第一に考え心配することを再認識した。子供の成長を願い、保護者との連携・協力を深め、子供の理解者は保護者であることを肝に銘じ、教育に取り組んでいきたいと改めて感じた。



画/「校庭のひまわり」
作/つくばみらい市立小張小学校長・箱田 俊男

先生に恵まれて

牛久・牛久南中
五十嵐 信治

「あなたは、先生に恵まれて
いるよ」女手一つで育ててくれ
た母親から伝えられていた言葉
である。小中高と文字通り恩師
との出会いで、自然と先生にな
りたいと思うようになった。

昭和六二年「本探講師」で県南
の小学校に赴任した。県北出身
のため知人もいない状況だった
が、小免取得のための通信教育
レポートを参考にさせてもらっ
た。日頃の学級経営はもちろ
ん、公私共に多くの先輩や同僚
に大変お世話になった。

二四年間の中学校勤務では
「先生の一々している事は間違いない
ですから。」「先生を頼りにし
ている人はたくさんいますよ。」
「先生の気持ちはわかっています
から。」などと、たくさん生徒
にも迷いや弱気を断ち切る言葉
をもらい常に前向きでいること
ができた。

管理職として一二年が経とう
としていた。私が先生方や子ど
もたちを支えることができたか
否かはわからないが、どこかで
「あなたは、先生に恵まれてい
るよ。」と言ってくれる人がいれ
ばいいなあと思う。

この夏の出会いに

つくば・柳橋小
塚崎 浩子

この夏、教師という職を見つ
め直す様々な出会いがあった。

一つは、毎年恒例の大学時代
の友人との会。互いの日々を労
り、美味しいものをいただき、
体に気を付けようとお励まし合っ
た。なくてはならない会である。

二つめは、二〇年ぶりの職場の
会である。当時三〇代の私を認
め、育ててくださった先輩方と
の懐かしい話と当時と変わらず
前進されている先輩方のお姿
に、力をいただいた。三つめは、
教え子との再会である。「先生、
分かりますか。」の質問に、中学
一年当時のまだ幼い顔が重なっ
た。聞くと、異国の地で働きの
ながら語学を身に付けてきたと。
逞しく立派な青年になっていた
ことがとても嬉しかった。四つ
めは、利尻富士を背景に分校が
建つ礼文島への旅である。青い
海と空、緑の丘陵のコントラス
トに目を奪われた。教師と教え
子の絆を描いた作品の舞台と
なった地で、これまでの教師生
活を振り返った。

この夏の出会いは、私の働き
がいに磨きをかけてくれた。教
師だからこそ味わえる喜び・つ
ながり・学び・歴史があること
を、若い職員に語りたくなった。

無功德の精神

結城・山川小
渡邊 孝典

先日、友人の紹介で書家であ
る元校長先生の個展に行ってい
た。そこには、色々な筆や墨等
で書かれた数々の見応えのある
作品が並んでいた。その中でも
ひと際、私の目に飛び込んでき
たものがあった。それが、無功
徳である。派手に自己主張をす
るわけではなく、奥ゆかしく、
しかし力強く光を放つて見え
た。これは、どういう意味です
か？と作者の先生に尋ねてみる
と、禅語で「むくどく」と言うの
だと教えてくださった。調べて
みると、仏教に深く帰依した武
帝が、達磨大師に、自分はこれ
までたくさん仏教発展のために
尽くしてきた。自分にはどんな
功德があるかと称賛の声を期待
して尋ねたところ、達磨大師に
は「無功德」と素っ気なく言われ
てしまったという話である。

私たちは、人のためにこれだ
けやったのだから、見返りがあ
って当然だと期待しがちであ
る。しかし、そのようなことは
やって当たり前という教えない
である。「損得感情に捉われな
い心」私は、いつになればそん
な精神を身に付けられるのだろ
うか。

先人たちの想い

下妻・大形小
中嶋 好一

本校に赴任した日、会議室の
大きな額縁に目がとまった。額
の中身は、石碑の写しのようで
ある。近寄ると、「青龍権現老
樹碑」と記してある。後日、教
頭先生に尋ねると、昔、校舎を
新築する際に村の木を伐採して
建てたようで、それを記した石
碑の写しらしい。興味深く、自
分でも調べてみた。すると、昭
和二二年、大形中学校は全生徒
を収容することが困難な状況。
生徒の一部は昇降口で授業を受
けていたという。村人はこの状
況を憂い、校舎の建て替えを
願ったがその費用を工面するこ
とが難しかったようだ。そのと
き、村人が集落の大きな七本を
伐採し校舎建て替えにあてるこ
とを提案した。しかし、多く人
は反対した。大木は村の御神木
として古くから崇められていた
からである。その後も妙案は出
ず最後は子供たちのためにとい
う思いが伝わり、神聖な儀式を
経て伐採された。その校舎も昭
和五五年に解体され、現在の大
形小学校の校舎が建てられた。

時折、校舎を眺めると、当時
の人々の想いが伝わってくる。

小中学校長研究協議会を 開催しました！



令和六年九月一〇日(火)から
一三日(金)にかけて小中学校長
研究協議会を開催いたしました。
ご協力ありがとうございました。
協議会の内容等につきましては
第二六一号にてお知らせす
る予定です。よろしくお願ひ
いたします。

編集後記

教室から明るい歌声が響いて
くるようになりました。生き生
きと表現する子供たちの姿から
「みんな」がこんなにも喜びに
満ちたものである事に改めて気
付きました。各校の取組の中にも
たくさんの子供たちの輝く姿
がありました。その輝きが広が
り深まっていくことを願ってい
ます。

今回、二六〇号を発行するに
あたり、ご執筆いただきました
方々に心から感謝申し上げます
とともに、皆様の益々のご健勝
とご活躍を祈念いたします。